

乳癌-51

HER-2 陽性乳癌(術前補助療法)

パージェタ+トラスツズマブBS(ハーセプチン)+ドセタキセル+カルボプラチン(TCbHP)

併用療法 患者プロトコール

催吐リスク
中等度
放射線併用なし

投与プロトコール		投与量	投与日	投与時間	備考
1コース 21日間 コース数:6コース 《開始時基準 PS:0~1 年齢:18歳以上》					
ルートKeep	生食 500ml	-	Day1	-	
①	初回 パージェタ:840mg/body 生食 250mL	mg	Day1	60分	
	2回目以降 パージェタ:420mg/body 生食 250mL			下記参照	
経過観察		下記参照			
②	初回 <input type="checkbox"/> トラスツズマブBS:8mg/kg <input type="checkbox"/> (ハーセプチン:8mg/kg) 60mg/Vを注射用水3mL、150mg/Vを注射用水7.2mLで溶解(溶解液濃度21mg/mL)し、必要量を下記に混注 生食 250mL	mg	Day1	90分	
	2回目以降 <input type="checkbox"/> トラスツズマブBS:6mg/kg <input type="checkbox"/> (ハーセプチン:6mg/kg) 60mg/Vを注射用水3mL、150mg/Vを注射用水7.2mLで溶解(溶解液濃度21mg/mL)し、必要量を下記に混注 生食 250mL			下記参照	
経過観察		下記参照			
プレメディ	NK1受容体拮抗薬		Day1~	30分前	
	5-HT3R拮抗剤+テキサメタゾン+生食100mL		Day1	30分	
③	ドセタキセル:75mg/m ² 5%ブドウ糖 250mL	mg	Day1	1時間	
	④ カルボプラチン:AUC(6) 5%ブドウ糖 250mL			1時間	
<p>◆パージェタおよびトラスツズマブ(ハーセプチン)は初回投与の忍容性が良好であれば、2回目以降の投与時間は30分まで短縮できる。</p> <p>◆経過観察:パージェタ及びトラスツズマブ(ハーセプチン)投与終了後、Infusion reaction発現がないことを確認し、次の薬剤を投与。 初回は30分の経過観察を行い、2回目以降は様子を見て短縮可能。 観察期間中のプレメディ投与については許容する。</p> <p>◆前回投与日から投与間隔が6週間以上の場合、パージェタ及びトラスツズマブ(ハーセプチン)ともに初回投与量を再投与。</p> <p>◆カルボプラチン投与量 = AUC(6) × (CCr+25) CCr算出:Cockcroft-Gault式 CCrが125mL/minを超える場合は、125mL/minとして投与量を算出する。</p>					

佐賀大学医学部附属病院